

診療科		月	火	水	木	金
内科	1診 (初診・要予約)	大橋(循環器)	三木(一般)	小嶋(循環器)	(初診)白倉 (糖尿病内分泌)	鈴木日子(脳神経内科)
	2診 (要予約)	市川(一般)			亀嶋(消化器)	小嶋(循環器)
	初診	三木(一般)	亀嶋(消化器)	大橋(循環器)	市川(一般)	渡邊(循環器)
	4診 (初診・要予約)	(初診)伊賀(循環器)	鈴木賢治(脳神経内科)		(初診)大橋 (循環器)	(初診)鈴木賢治 (脳神経内科)
	5診 (初診・要予約)	(初診)加藤(呼吸器)		(初診)伊藤 (一般・血液内科)	伊賀(循環器)	(初診)田邊 (一般・血管外科)
	6診 (要予約)					水谷(腎臓内科)
	午後(要予約)		第4週 水谷 (腎臓内科) 15:00～15:30	鈴木日子 (脳神経内科)		
	もの忘れ外来 完全予約制 14:00～16:00		第1,3週 鈴木 賢治 第2,4週 脇田 (脳神経内科)	第2週 鈴木 日子 (脳神経内科)		
	肺がん相談外来 午前			深井(呼吸器外科)		
外科	1診	舟橋(ヘルニア外来)	岡田	舟橋(ヘルニア外来)	岡田	舟橋
	2診		岩井		武田(血管外科)	岩井
	乳腺二次検診外来 (完全予約制) 13時～				舟橋	
整形外科	1診	山田 初診受付終了11時	山田	加藤	加藤 初診受付終了11時	山田
	2診	加藤 初診受付終了11時	代務医師	代務医師	江崎 初診受付終了11時	第1,3,5週 江崎 第2,4週 加藤
脳神経外科	1診	伊藤	伊藤	伊藤	今村 受付終了11時	伊藤
	2診	山田		上田	上田	
眼科 完全予約制	1診	松田	松田	松田	松田	松田
	2診	三國	三國	三國	三國	河合
	3診	江崎	江崎	代務医師	桑山	桑山
	4診	第1,3,5週 北條 第2,4週 河合	北條	河合	第1,3,5週 河合 第2,4週 北條	北條
	黄斑外来 (14時～16時)			第4週 小椋		
泌尿器科	1診	清水	金本	金本	清水	金本
	2診 (再診のみ)		最上	最上		
皮膚科		代務医師		代務医師	代務医師	
耳鼻咽喉科			代務医師			代務医師
婦人科			小林	古郡	古郡	小林
リハビリテーション科						代務医師 第3金曜日

※この診療体制は、都合により変更になる場合がございます。ご了承ください。

看護外来担当表

	月	火	水	木	金
フットケア外来				午前9時～12時 (1名1時間)	
もの忘れ看護外来		第1,3火曜日 14時～16時(1名1時間)			
心不全看護外来				午前10時～11時半 (1名1時間)	
圧迫療法相談外来			10時～12時 13時～15時 (初診1時間,再診30分)	10時～12時 13時～15時 (初診1時間,再診30分)	
爪切り外来				13時～17時 (1人1時間)※第2のみ	

病院の理念

キラリと光る医療を提供し、地域の皆さまから愛され信頼され選ばれる病院をめざして職員一同努めてまいります。

編集後記



藤が終り、雲が広がりやすい季節です。日差しを遮る、雨を降らす雲ですが、雲の上は雨は降らず、青空、夕焼け、満天の星空の静かな美のループ。これに対し、雲はひょっとと現れ、ゆっくり、時に、ものすごい速さで動いていきます。雲のじゅうたん、すじ雲、うろこ雲、いわし雲、ひつじ雲、わた雲、入道雲。何もすることがない時、のんびりと雲を眺めてみるのも、風情があり、いとおかし、ですね。ああ、現代風では、めっちゃやばい、超エモい、と言うようです。これ豆知識。

(文責：脳神経外科 上田行彦)

三重北医療センター 菰野厚生病院 広報委員会

〒10-1234 三重郡菰野町福村75

TEL059-393-1212 FAX059-394-2679

地域医療のコミュニケーション誌

発行 / 三重県厚生連三重北医療センター菰野厚生病院 編集 / 菰野厚生病院
所在地 / 三重郡菰野町福村75番地
TEL / 059-393-1212 FAX / 059-394-2679
URL / <http://www.miekosei.or.jp/kkh>
編集協力 / TCKnagoya

'25.5月
vol.28



JA 三重厚生連 三重北医療センター 菰野厚生病院

ふじだな 通信

k o m o n o k o s e i n e w s



特集号

三重北医療センター菰野厚生病院
「整形外科 × リハビリテーションの強み」
義足で“走る”“歩く”“できる”広がる可能性を知る



大和鉄脚走行会
2024年パラリンピック日本代表
前川 楓さん

TOPIX 

今号のぽっかぽか情報

いきいき健康講座のお知らせ

地域の皆様を対象に、病気の予防や健康管理に役立つお話をさせていただきます。
事前申し込みの必要はありません。是非、ご来院ください。

第2回
令和7年7月18日(金曜日)
●14:00～15:00 ●本館4階会議室
テーマ 「脳ドックの重要性」
講師／脳神経外科医師
／上田 行彦

第3回
令和7年9月19日(金曜日)
●14:00～15:00 ●本館4階会議室
テーマ 「糖尿病性腎症」
講師／腎臓内科医師
／水谷 安秀

テーマ 「健診センターについて」
講師／医事課
／山本 慧

テーマ 「糖尿病の薬物療法」
講師／薬剤師
／谷口 慶

健康に関するさまざまなテーマをご用意しております。奇数月に開催予定です。お気軽にご参加ください。

◆特集号 4ページ
義足で“走る”“歩く”
“できる”広がる可能性を知る

◆今号のぽっかぽか情報
・いきいき健康講座の
お知らせ

◆こもの日和
・新任医師紹介
・新入職員紹介

◆今号の TOPICS
・通所リハビリテーション
いきいき

◆Pick up News
・出張出前講座
・飲み込み訪問リハビリ

◆外来担当医表

三重北医療センター菰野厚生病院

「整形外科 × リハビリテーションの強み」

義足で“走る”“歩く”“できる” 広がる可能性を知る

義足と共に歩む再出発
～患者さんの不安に寄り添うチーム医療～

病気や不慮の事故などにより、長年共に歩んできた足をなくすということは、患者さんにとって、とても大きな喪失感、心理的ダメージを伴うこととなるでしょう。現実を受け止め、克服していくには、多くの時間が必要ですが、義足を装着し、前向きにリハビリテーション（以下、リハビリ）に取り組むことは、受容・克服へ至る近道となるはずで。しかし、ほとんどの患者さんは、“義足”というものを目にしたことも、手にしたことも無く、「再び歩けるようになるのか」、「切断後の生活はどうなるのか」など、多くの不安を抱えておられることでしょう。そのような患者さんに対して、当院回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）では、医師、義肢装具士、看護師、理学療法士、作業療法士、ケースワーカー、栄養士がチームを組んでしっかり支援させて頂き、患者さんやご家族の不安解消に努めています。



リハビリを開始するに当たり重要なことは、リハビリの目標を設定することです。ただ単に歩けるようになるだけでなく、家庭復帰、職場復帰、趣味の再開、ペットの散歩、スポーツをやってみたいなど、また車椅子生活の患者さんにとっては移乗動作が楽に行えること、介助者の負担軽減など個々の患者さんによって目標は違ってきます。

義足は義肢装具士が作製しますが、入院後すぐに作製するわけではありません。まずは断端（切断して残った脚の部分）の管理をします。看護師や理学・作業療法士により手術時の創の状態など皮膚のチェックを行い、義足をスムーズに装着できるように断端の形状を整えていきます。そして義足装着前訓練として、関節可動域の維持・改善、筋力強化訓練、平行棒内立位・バランス訓練や歩行訓練などを行います。

義足との初対面
～装着訓練とフィッティング調整の始まり～

医師が断端の状態を確認し、義足作製の許可が出ると、義肢装具士により採型が行われ、作製へと進んでいきます。最初に作製される義足は透明ソケットで組み上げた義足です。患者さんはこの時初めて楽しみにしていた義足と対面することとなり、義足をつける訓練が開始されます。そして立位・バランス訓練、歩行訓練など平行棒を利用した安全な訓練より実施していきます。毎週の義肢装具士による確認と修正は個々の患者さんに適合した義足を作り上げていく上で非常に重要となります。

仮義足と共に広がるリハビリのステップ
～日常生活復帰への具体的支援～

断端の形状や皮膚の状態が落ち着いてきた段階で「仮義足」と呼ばれる義足の作製に進みます。リハビリは患者さんの動作能力、歩行能力に応じて、歩行器歩行訓練、杖歩行訓練、独歩訓練、階段昇降訓練、屋外歩行訓練、不整地歩行訓練、坂道歩行訓練などへ、ステップアップしていきます。また、並行して退院後の生活を想定し、トイレ動作、入浴動作、更衣動作、床からの立ち上がり動作、家事動作、自転車走行、自動車乗降動作など個々の患者さんに応じた日常生活動作訓練も実施していきます。更に必要に応じて退院前自宅訪問の実施や、実際に買い物に行ったり、電車やバスに乗ってみたりと、入院中に少しでも退院後の不安解消に繋がるように支援させていただきます。

自分らしい生活の復活を～患者さんの不安に寄り添うチーム医療

回リハ病棟では、1年を通して義足患者さんが頑張ってリハビリを行っています。新しく入院された患者さんにとって、先輩患者さんからアドバイスをもらったり、愚痴や悩みを言いあったりできることは、とても心強いと思います。目標に向かって楽しく（?）、少し厳しいリハビリに挑戦して頂くことで、辛い現実を受け止め、克服に要する時間を少しでも短くできるようチーム一丸となって支援させて頂きます。「できない」と思っていることを「できる」にするために、身体の一部となった義足と共に“自分らしい生活”の復活を目指していきましょう！！



仲間と共に歩むリハビリ ～義足で“走る”“歩く”“できる” 広がる可能性～

当院の強みのひとつであるリハビリテーションセンターでは、整形外科、リハビリテーション科の専門家たちがチームとなり、患者個々の目標に向けた支援をしています。今回、菰野厚生病院広報委員会は、義足のリハビリテーションに注目し、義足ユーザー中心のスポーツチームである「大和鉄脚走行会（やまとてっきゃくそうこうかい）」（以下、走行会）の練習会に参加し、高橋さん、鎌田さん、前川さんの3名の参加者の方々にお話を伺いました。

大和鉄脚走行会の練習は、桑名市いなべ市の運動公園などで月1回開催しています。練習会に参加した2024年11月23日（日）は、桑名市のNTN運動公園で練習会が開催されました。

人生を変えた出会い 高橋さん

“8年前下肢を切断、入院中はちょうどオリンピックの時期でした。その時、パラリンピックのことや義足でも走れることを初めて知りました。その当時、義足の種類や走る方法など、義足について情報を得る中で、この「走行会」を知りました。”人生を変えた出会い「風を切って走ることが最高に気持ちいい！」
“走ることができるなんて想像もしていませんでした。仲間と出会い、方法を教えてもらい走ることができました。『人から見るとゆっくり走っていると思いますけど、自分自身ではものすごいスピードで風を切って走っているように感じるんですよ。本当に気持ちがいいです。』今は加藤先生に勧められ、大会に出場するようになりました。上達していくことが楽しいです。”と、走る喜びについて語ってくれました。

まさか、自分が走るなんて想像もしていなかった 鎌田さん

穏やかな口調で話していただいた女性、走る姿はアスリートそのもの。鎌田さんは、8年前に下肢切断し、走行会の参加は5年目になります。“陸上の経験はありませんでしたが、切断後「何かできないか」と考えていたとき、加藤先生から上手に勧められ、今は大会にも出場しています。普段は、自主トレーニングで、ここで（走行会）指導してもらっています。みんな笑顔で元気ですよ。”『まさか、自分が走るなんて想像もしていなかった』



加藤先生が走行会の参加を勧めてくれた 前川さん

前川さんは、2024年パラリンピック日本代表で出場した方で、かわいいイラストが描かれている義足を見せてくれました。「リハビリで入院した時の主治医が加藤先生で、走行会の参加を勧めてくれた」ことがきっかけだと話してくれました。ジャンプ姿がとても“カッコいい”、魅了された瞬間でした。

こもの日和 新任医師をご紹介します

新しい仲間が増えました

We welcomed a new employee

泌尿器科医師



清水 伸彦
(しみず のぶひこ)

眼科医師



桑山 聡志
(くわやま さとし)

眼科医師



三國 奨大
(みくに しょうた)

整形外科医師



江崎 貴大
(えさき たかひろ)



4月1日に入職式が行われ、新しい仲間が増えました。看護職だけではなく多職種も迎入れることができ、なお一層連携を深め一丸となって努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

Pick up News

Pick up
01

「出前講座」開講しました！

令和6年度より『出前講座』を開講しました。

地域の皆様が「いつまでも住み慣れた場所で元気に過ごしたい」「新しいことにチャレンジしたい」など様々な願いを叶えられるよう『自分の健康を守る』お手伝いをさせていただきます。当院の専門医療スタッフが直接地域の皆様のもとへ出向き、無料にて講座をお届けしています。講座内容は、10項目をテーマとした「Menu表」より選ぶオーダー形式となっています。

今回、令和6年11月26日に菰野町役場から依頼を受け、町内の企業に出向き出前講座を開催しました。「肩こり腰痛の原因と防ぎ方」をテーマに作業療法士(Occupational Therapist: OT)が講師となり、肩こり腰痛の原因を説明、正しい対処方法やストレッチの実際を体験、看護師による健康相談会を実施しました。健康相談会では、自身についての体の悩みや不安、ご家族の健康や介護についての悩みもお聞きしました。また、相談する場所がわからず困ってしまうことも知りました。今後、もっと地域の方々が安心して過ごせるようお役に立ちたいと思います。病院で待っているのではなくもっと地域に出向ける病院を目指していきます。尚、『出前講座』は少数グループ・団体等ご要望に応じ対応させていただきます。地域の皆様からのオーダーをお待ちしています。

『出前講座』に関するご質問・ご予約等は下記【問い合わせ】にご連絡ください。

お問い合わせ

担当者：看護部 村瀬 ☎ 059-393-1212 (代)

QRコードはこちら



『出前講座』オーダー方法

①QRコードを読み取る



②必要項目入力



③Menuを選択



④送信

お電話でのオーダーもお受けしております

Pick up
02

「一口でも安全に食べていただきたい」 飲み込み訪問リハビリをはじめました！

当院の訪問看護ステーションでは、病気などで飲みこみが悪くなった方に、言語聴覚士がご自宅にうかがい、嚥下(飲み込み)リハビリテーションを実施しています。主治医をはじめ、リハビリ科医師や歯科医師等の飲みこみ専門の医師や看護師と連携して訓練をしています。ご自宅で嚥下のリハビリテーション受けてみませんか？



お問い合わせ

訪問看護ステーションいきいき ☎ 059-393-5566

今号の topics

通所リハビリテーション いきいきをご存知ですか？

当院の通所リハビリテーション（以下デイケア）いきいきをご存じですか？

デイケアいきいきは、利用者さんお一人おひとりの生活をイメージしたリハビリテーションを行っています。例えば、日常生活において、一人でのお散歩や入浴に不安がある場合に専門のリハビリスタッフをはじめ看護師や介護福祉士が一丸となり、安心して日常生活が送れるようサポートしています。

また季節のイベントとして、お花見や菜園作り、運動会などを開催しています。

和気あいあいとしたデイケアです。興味のある方は、是非見学にお越し下さい。

スタッフ一同、心よりお待ちしております。

お問い合わせ

☎ 059-393-5642 担当者：デイケア看護師安井



左記 QRコードをスキャンしていただくと、上記デイケアセンターのリーフレットをご覧ください。



お知らせ

言語聴覚士(ST)訪問ははじめました

たべる

・最近むせる
・飲み込みにくい

はなす

・言葉が出にくい
・舌が回りにくい



走る喜びが人生を変える ～走行会がつなぐ仲間と未来～

走る事のうれしさ、楽しさを語った皆さんの表情は明るく、とても輝いていました。「やりたいことができる」「できるために努力する」これは簡単なことではありません。参加者それぞれが、やりたいことを見つけるまでには、とても大きな努力がありました。

どの参加者も同じように言っていたのは「走ることで、人生が大きく変わった」ということ。そのきっかけが、「走行会」との出会いでした。走るときの体重のかけ方、身体の使い方の指導をもらい、トラックを走る姿はとてもかっこ良く、全員がアスリートです。そして、何より大事にしていると感じたのは、「走行会」が仲間との対話ができる場所であり、同じ思いを持った仲間と関わる大切な時間であるということです。

私たちは、もっと義足の方や医療従事者に、このような活動を知ってほしいと考えています。情報を知らないまま、自分の目標やゴールを決めることがないよう、これからも情報発信をしていきたい。そして、今後このような活動の場が増えることを期待すると共に、多くの方に知っていただけるよう当院でも活動の場を広げていきたいと考えています。



義足で走る喜びを広めたい ～走行会が生まれたきっかけ～

「義足の人が歩いたり、走ったりできることを知ってほしい。知ること目標や支援が違ってくるから。」と加藤医師。「もっと義足の方や医療従事者はこのような活動があると知ってほしい。情報を知ること目標やゴールが変わってくる。」と、加藤医師は話します。「走行会」を始めたきっかけについて「当時、担当していた義足の患者さんから『今まで走ったことがないから、一度走ってみたい』と言われました。その方は切断から10年以上経過して、ちょうどその時義足のランニングチームを主催している義肢装具士さんが講演に来

ていて、患者さんと一緒に話を聞きに行きました。みんなが走る映像を見て『すごいな』と思いました。それまで私も義足で走ることができることを全然わかっていませんでした」と加藤医師。そこから東京のチームに参加し、三重県でも活動したいと思い、何とか集まれるメンバーで三重県でのチームを立ち上げたことが始まりで、そこから現在の「大和鉄脚走行会」となったと語ってくれました。



義足の方やサポートする方へのメッセージ

「足の切断はとてもつらいことです。何度も思い出して泣く方もいます。歩いたり走ることができても、切断する前に描いていた将来とは大きく違って来るから。その気持ちをわかってあげなくてはいけない。自身がやりたいと思い、自分の時間や力を使いたいと思っているときに、一緒に考える仲間や、一緒にできる人がいると結果は変わってくると思います」。(加藤医師)

回復期リハビリテーション病棟への期待 ～加藤医師より今後の展望について～



整形外科 加藤医師

「今、思っていることは義足のリハビリが、全国的にまだまだ行われていないということです。例えば、疾患にもよりますが、もともと歩いていた方が切断して、『もう歩けない』ではなく『また歩ける』というのが私の感覚です。高齢の方で大腿切断した方は『もう歩けない』となり車椅子と判断されることが多いです。でも実際にリハビリをして、歩けることができたんです」と、義足リハビリの重要性を述べ、そこ

には回復期リハビリテーション病棟への期待があり、次のように話しました。「回リハ病棟でリハビリを行うと、歩ける確率は高くなると思います。しかし、義足のリハビリ目的で回リハ病棟に入院できるという認識はまだ薄いです。入院する病院や病棟の選択によっては、入院期間やリハビリ内容、ゴールが変わってきます。だからこそ、義足の方にお伝えしたいのは、『まずは回リハ病棟に来てほしい』ということです。当院には、リハビリテーションセンターや回リハ病棟があり、セラピストの育成も行っています。パラリンピックのメダリストを指導する講習会が毎年開催されていますが、特に、2024年は多くのセラピストが参加し、走ったことのない人が走れる姿を目の当たりにしました。実際に走っている人を見たり、指導方法を見ることでだいぶイメージができたみたいですね。その後のリハビリが変わってきましたね。これからも、病院のリハビリを変えていきたいですね」(加藤医師)

義肢装具士・香川貴宏さんが支える “できる”の広がり

当院では週に一度義肢装具士の香川貴宏さん(株式会社 松本義肢製作所)が義肢の調整等を行っています。義足ユーザーをサポートする上で義肢装具士の存在は欠かせません。そこで義肢装具士の香川さんに、今回のテーマである「義足で“走る”“歩く”“できる”広がる可能性」についてお話を伺いました。



義肢装具士 香川貴宏さん

Q: 義足に関わることになったきっかけ

私自身が義足をはいている立場なので、何か義足ユーザーさんへのお手伝いができないか考えたとき、切断された方やお困りの方の役に立てればと。義肢装具士を養成する学校に入り3年間学び、国家資格を取得し29年携わっています。今年で30周年です。

Q: 30年間の中で印象に残っていることは

みなさんと苦労を共に解決してきたので自分が関わった方は全て記憶していますね。そして新たな発見や気づきとなって今後に活かしています。

Q: 菰野厚生病院に来ていただくようになったきっかけとやって良かったことは

加藤先生に声をかけてもらい、松本義肢に外来の診察と一緒にやってほしいと。2020年から始め5年になります。この地域で義足を専門的にやって見える整形外科の先生は非常に少ないです。リハビリまで関わり、歩行や走ったりするとこ

ろまで面倒を見てくれる先生はとても貴重です。この仕事で良かったことは、自分が作製した義足で歩いてくれているのを目の当たりに見られること。自分のやったことが成果として現れますので、やりがいがあります。形にして提供する際に、良いも悪いもその場で直接言われる訳ですから、非常に緊張します。入院中、苦労した方が退院後に『旅行に行って楽しかったよ』と言ってくれ、『やっていてよかったな、自分の作ったものが役に立っているな』と思えますね。義足をはいて行動範囲が広がって、自分の意志で好きな場所に行けて、できることが増えていく姿を見たり聞いたりすることは大変うれしいことです。

義肢装具士は義足の方々の「可能性を広げる」ためにはなくてはならない存在です。回リハ病棟では、実際に義足をはいて歩行する場面を香川さんに見てもらい装具を作製したり、ベストな状態への微調整を行っています。

現在、義肢装具士を養成する学校は全国で10校ほどで、毎年国家試験に合格する方が約150人と少なく、人材不足問題があると言われています。香川さんは「体幹に関してはスキャナーで読み取り外の形は作れるが、骨の当たる場所や軟骨組織の部分、体重を支持できる部分は読み取れない。現時点では微調整が難しい」と話しており、細かな調整、適合感は職人の手による技の部分がとても重要であることを知ることができました。今後も引き続き、義肢装具士についてお伝えしていきます。



あとがき

今回の特集では、義足で“走る”“歩く”“できる”広がる可能性を知るをテーマに、義足のリハビリテーションについてお伝えしました。「大和鉄脚走行会」の活動から回復期リハビリテーション病棟での義足リハビリについて、まだ知らない義肢の方や医療従事者にも知っていただき、これまでできないと思っていたことも「できる可能性がある」、何をしていいかわからない方も「何かできる」ことを知っていただきたいという思いから今回の特集を企画しました。この記事を読んでいただいた方々が、少しでも前に進み出すきっかけになってもらえることを願っています。

三重北医療センター 菰野厚生病院 広報委員会